



韓国・豊生高 李キョンベ先生来熊! 4月18日

樋口清輝支部長の恩師である韓国、豊生高の李キョンベ先生がご子息とともに久しぶりに熊本を訪れた。今回は、ご子息のビザの関係で来日した。

19日、かつて豊生高に留学や合宿でお世話になったメンバーが集結、歓迎会を行った。李先生は、久しぶりの再会に大変喜んでいた。いつになつても先生への感謝の想いは変わることはないだろう。

県協会は1992年から豊生高との交流を開始、県内テコンドーの選手強化に大きく貢献している。

豊生高は、オリンピック選手や国家代表選手を多く輩出している韓国ではトップクラスのテコンドー強豪校の一つである。



公益返上に反対する有志の記者会見開かる! 5月17日 大阪府

4月23日、全日本協会は、公益社団法人を取り下げる、前代未聞の決定を強行決議したが、それに反対する、大阪、福島、新潟、奈良、高知、熊本等の代表が、返上反対との声明文を発表した。返上に反対している府県は13県程度と見られ、総会での創意について無効を訴えた。全日本協会は、内閣府より昨年12月、本年4月に二度の勧告を受けており、金原執行部の責任問題に発展している。

しかし、内閣府の指摘を真摯に受け取る事なく、一般社団へ移行する逃げの一手で、常識では考えられない公益返上を強行している。記者会見の様子は、NHK サタデースポーツ放送された。

今回の件は、スタッフ細胞問題の小保方氏の弁護士である三木秀夫氏のコラム「相次ぐスポーツ団体の勧告」をご一読頂ければ、よく理解できる。



前期理事会・加盟団体総会 5月24日 本部道場

平成26年度の前期理事会及び加盟団体総会は、県内各道場、大学クラブ等から10名が出席して行われ、平成25年度の事業報告、収支決算、本年度事業計画等について約3時間に亘り開催された。

特に、全日本協会の公益認定返上については、17日、大阪で8府県の代表及び弁護士による返上反対への記者会見を行った事につき、今後も公益を継続できる様に返上反対の各府県と一致協力していくこと等を報告した。

公益法人取り消し・内閣府、県協会は、退会処分?

内閣府は、7月1日、公益社団法人全日本テコンドー協会の公益認定を取り消すことを決定した。

昨年12月、今年4月と二度に亘る内閣府からの是正勧告を受けていたが、それに真摯に対応することなく公益認定を返上する云う、前代未聞の暴挙にでた。今後、5年間は、申請する事が出来ず、2020年東京五輪を控え、國のお墨付きを得ていた公益認定が無くなる事で、組織運営等のチェック機能が及ぼない事となり、競技団体のガバナンスが問われる昨今、時代に逆行する手法に、日本のテコンドー界の衰退を感じ得ない。また、熊本県協会が退会処分となっているとの文書が、県協会の会員、保護者宛てに送られて来たが、いつ、どのような理由で退会処分となったのかも不明であり、協会には、未だ正式な処分通知は來ていない。

競技団体の退会処分や除名処分は、よほどの事がなければ行われないので、一般常識であり、現在、県協会は、顧問弁護士と相談し今後の対応を検討している。

JOC謝金問題を起点として、現執行部は、何一つ、明確な説明をすることなく、また、内閣府が代表理事、理事、監事の責任の所在を明確にとの指摘を真摯に受け止める事なく一般社団法人として、逃げの一途で邁進し、意見を述べる者たちを排除しようとする、組織運営は、いずれ破たんすることに違いない。

テコンドーくまもと Vol.43

TAEKWONDO KUMAMOTO 2014.3▶2014.7



熊本市大会 熊本武道館

全日本選手権 津田ひかる選手2連覇! 牧野信一選手初優勝! 3月2日 兵庫県立武道館



入賞選手



津田理事と津田ひかる選手

第7回全日本選手権大会は、東日本地区大会、西日本地区大会等で入賞した選手、前年度の入賞者等が出場して行われた。県協会からは、9名の選手が出場し優勝目指して奮闘した。

前年度、女子-46kg級で優勝した津田ひかる選手(学園大)は準決勝から登場、千葉の石井選手に12対0で圧勝、続く準決勝も東京の藤掛選手に10対5と快勝。決勝は、ここ数回、決勝で対戦している神奈川の松井優菜選手、接戦となり11対10で勝利、2連覇、通算5度目の優勝を飾った。また、男子-87kg以上に出場の牧野信一選手も準々決勝から出場。準決勝では、滋賀県の内田選手に15対12で勝利し、決勝は愛知のロジャアンドレ選手に9対3で下して嬉しい初優勝を飾った。また、同級出場の中村彰吾選手(崇城大)も3位入賞を果たした。

また、韓国プンセン高を卒業した西村純選手(熊本アカデミー)は、決勝で惜しくも中川貴哉選手(東京)に敗れ準優勝となる。同じく西村真利愛選手(韓国留学中)も上位進出はならなかつた。

第5回くまもと阿蘇オープン選手権大会! 3月30日 阿蘇市体育館

熊本県協会主催の第5回くまもと阿蘇オープン選手権大会は、桜咲く阿蘇市体育館で、県内選手を中心にオープン参加の沖縄、宮崎、福岡などから選手112名が出場して開催された。

今まで、県内で開催されていた城北大会、城南大会、そして阿蘇で第4回まで開催した熊本オープンの3大会を統合し、第4回くまもとオープンの回数を継承、県内テコンドー発祥の地である阿蘇をタイトルに加え、新しく生まれ変わった大会となつた。

開会式では、来賓として、蔵原博敏、阿蘇市議会議員、細江順一福岡県テコンドーアカデミー、大谷幸朗、宮崎県協会会长等が参席、福岡県岡垣町テコンドー連盟の細川光利顧問から、全日本協会は内閣府からは正勧告を受けており、誠に残念である。ここに参加の良識ある指導者の皆さんにより、公平で健全な協会を一日も早く取り戻してもらいたい等とあいさつ、その後、3月2日に兵庫県で開催された全日本選手権で優勝を飾った、牧野信一選手、津田ひかる選手へ県協会から表彰状が贈られた。

その後、ジュニアから一般まで21階級で試合が行われ、最優秀選手賞には、中学1年で一般の部に出演、見事に優勝した森永修斗選手、ジュニアの部では小学・6年の部で、兄弟対決となった森川兄弟の森川光選手(福岡)が選ばれた。



男子の試合



記念写真



女子の試合



※大会結果の詳細はホームページに掲載

第20回県学生選手権大会・熱戦相次ぐ!

4月27日 熊本大学体育館

今年で20回となる県学生選手権大会、及び第46回熊本地区大学総合体育大会は、崇城大、熊本大、学園大の3大学テコンドー部が参加してブンセ、キヨルギの2競技で開催された。

開会式では、松瀬憲司、熊本大テコンドー部顧問の挨拶の後に試合が行われた。ここ数年、県内各大学も部員数が増えて来ている様子で応援にも熱が入る。キヨルギは男子3階級、女子2階級、及び団体戦が行われ、男子軽量級、中量級を熊本大が、重量級を学園大、女子軽量級を熊本大、重量級を学園大が、団体戦は学園大がそれぞれ優勝を飾った。

全国的にも20年に亘り大学生の都道府県単位の大会が開催されているところは皆無であり、伝統ある大会を成功の内に無事終えた実行委員長の熊本大河野翔太主将は安堵の表情を浮かべた。



第20回県選手権大会110名が熱戦!

6月8日 県民運動公園体育館

平成6年11月、旧阿蘇町で開催された第1回県選手権大会、オリンピック選手を初め、世界選手権等国際大会そして3月の全日本選手権大会で優勝を飾った、津田ひかる選手、牧野信一選手等、多くの優秀な選手を輩出した伝統ある県選手権大会も20年を迎えた。

今回は、8月に宮崎県で開催される九州大会の選考会も兼ねた大会で、110名の選手が出場して、熱戦を繰り広げた。開会式では、本年度から県協会顧問に就任いただいた弁護士で県日韓親善協会の会長でもある北里敏明先生の来賓あいさつに続き、熊本大の神垣選手の選手宣誓で試合が始まった。大会の模様は、12日の熊本日日新聞に掲載された。



熊本市大会 83名が熱戦!

7月6日 熊本武道館



第6回熊本市選手権大会及び第5回熊本市杯スポーツ大会テコンドー競技は、6日、熊本武道館に熊本市及び、オープン参加で出場した県内道場から83名が参加して、ブンセ、キヨルギが行われた。

開会式では、高橋和成、戸山流師範から熊本武道館の成り立ちや、武道が如何に大切であるかなどの挨拶の後、試合が開始された。神聖な武道館での大会は、参加した選手にとって記念に残る大会だと言える。

全日本協会・公益認定委員会から再三の回答請求

昨年12月、是正勧告を受けた全日本協会だが、今回、新たな文書が明らかになった。

3月3日、4日の二日連続で送られた文書には、熊本県協会の正会員の問題、都道府県協会が全日本協会の加盟団体ではあるが、別の組織、団体である。

また、JOC謝金問題を「裏金」とし、再度の報告要求及び代表理事、理事、監事等の責任について等厳しい回答を求めている。かねてより樋口悦夫県協会長がコラム欄で述べていた事が、内閣府の指摘により現実となつた。

RKK熊本放送 テコンドーテレビ取材!

3月20日 本部道場

RKK熊本放送夕方の人気番組「夕方いちばん」のK&Kコーナーでテコンドーの取材があり、廣田翔栄選手他数名がテコンドーの技を紹介、レポーターもテコンドー初体験で奮闘。



記念撮影

昇段級審査に95名が受験!

4月6日 県民運動公園体育館

平成26年度春季昇段級審査は県民運動公園体育館で95名が参加して行われた。

受験者は、基本動作、ブンセ、キヨルギにそれぞれ合格を目指して、緊張しながらも真剣に取り組んでいた。



昇段級審査の様子

故、窪田速男八代支部長 「お別れ会」開かる!

4月12日 アークホテル

1月11日に逝去した窪田速男八代支部長の県協会主催のお別れ会が4月12日に熊本市内で行われた。

殆どの支部長に加え八代支部の道場生等36名が参加して2時間に亘り、故窪田支部長を偲んだ。県協会からは、遺族の窪田真衣さんに故窪田支部長の功績を讃えて、感謝状が贈られた。窪田速男氏のご冥福を祈りたい。



「第2回スポだめし」 多種目体験型フェスティバルにテコンドー初登場!

4月12日 熊本市総合体育館武道場

熊本市社会教育振興事業団が主催する多種目体験型フェスティバル「第2回スポだめし」に今回からテコンドーが参加することとなり、津田ひかる、阪上弘一の2名が講師スタッフとして参加した。

このイベントは、子供達にオリンピック競技を体験してスポーツへの興味を持ってもらい、スポーツの普及振興を図るために昨年から開催されている。

テコンドーは武道場で行われ、午前中から10回に亘り、述べ100人の子供達がテコンドーを初体験し好評を得た。

